



平成21年11月6日

各位

会社名 株式会社 葵プロモーション
 代表者 代表取締役社長 高瀬 哲
 (コード番号9607 東証第一部)
 問合せ先 専務取締役 八重樫 悟
 TEL03(3779)8000

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年5月20日に公表した業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

(1) 平成22年3月期第2四半期累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)の業績予想数値の修正
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	7,750	220	200	90	7.40
今回修正予想(B)	6,148	54	△131	△86	△7.25
増減額(B-A)	△1,602	△166	△331	△176	-
増減率	△20.7	△75.5	△165.5	△195.6	-
(ご参考)前期(平成21年3月期第2四半期)実績	7,684	253	224	△85	△7.06

(2) 平成22年3月期通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想数値の修正
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	16,950	880	810	410	33.75
今回修正予想(B)	13,900	460	130	250	20.90
増減額(B-A)	△3,050	△420	△680	△160	-
増減率	△18.0	△47.7	△84.0	△39.0	-
(ご参考)前期(平成21年3月期)実績	16,765	432	388	△289	△23.84

2. 個別業績予想の修正

(1) 平成22年3月期第2四半期累計期間(平成21年4月1日～平成21年9月30日)の業績予想数値の修正
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	5,900	60	95	32	2.63
今回修正予想(B)	4,241	53	76	△20	△1.72
増減額(B-A)	△1,659	△7	△19	△52	-
増減率	△28.1	△11.7	△20.0	△162.5	-
(ご参考)前期(平成21年3月期第2四半期)実績	6,256	251	277	△30	△2.50

(1) 平成22年3月期通期(平成21年4月1日～平成22年3月31日)の業績予想数値の修正
 (単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前回発表予想(A)	12,500	460	520	230	18.90
今回修正予想(B)	9,800	260	300	200	16.72
増減額(B-A)	△2,700	△200	△220	△30	-
増減率	△21.6	△43.5	△42.3	△13.0	-
(ご参考)前期(平成21年3月期)実績	13,016	535	630	△168	△13.86

3. 業績予想修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

① 個別

最悪期は脱したものの予断を許さない状況が続いているわが国経済の動きを反映した広告需要減少の影響が思いのほか大きく、売上高が10数年前の水準まで落ち込んだことから、上記のとおり期初の業績予想を下回る見込みとなりました。

また、利益面では、制作原価率の低減や固定費の抑制が奏功し減収の影響を最小限に止めることができましたが、関係会社株式評価損・事務所移転損失引当金繰入等の特別損失や税金費用計上があり、上記のとおり期初の業績予想を下回る見込みとなりました。

② 連結

売上高は、連結子会社が総じて健闘したものの個別業績予想の修正の影響が大きく、上記のとおり期初の業績予想を下回る見込みとなりました。

また、利益面では、連結子会社が前期の不振から立ち直りつつあるものの計画した水準に達しなかったことと、デジタルサイネージネットワーク開発及び生活行動情報流通事業等を推進するため本年4月に立ち上げた㈱タクサシステムズ（現在の払込済資本205百万円、持分法適用会社）に係わる持分法投資損失が、弊社グループの出資が先行する増資スケジュールの関係から最終的に想定している以上の比率で算出した数値で営業外費用に計上されることと等から、上記のとおり期初の業績予想を下回る見込みとなりました。

(2) 通期

① 個別

今後のわが国経済は、種々の下振れリスクを抱え諸施策の展開次第では景気停滞が長期化する懸念もあります。広告需要は、暫くは冷え込んだまま推移することが予想されます。

売上高が大きな改善は見込み難いこと、利益面は制作原価率の低減や固定費の抑制が更に期待できるものの減収の影響が大きく黒字転換は果たしますが、いずれも上記のとおり期初の業績予想を下回る見込みとなりました。なお、前期計上の映画作品に係る貸倒引当金の戻入額127百万円を特別利益として織り込んでおります。

② 連結

売上高・利益とも、個別業績予想の落ち込みが大きくかつ連結子会社業績の回復の足取りも鈍いことから、個別業績同様黒字転換は果たしますが、上記のとおり期初の業績予想を下回る見込みとなりました。なお、㈱タクサシステムズ（期末の払込済資本予定655百万円）に係わる持分法損失225百万円を営業外費用に、持分変動利益130百万円を特別利益に織り込んでおります。

なお、配当につきましては、平成21年5月20日公表のとおり、前期と同額の1株当たり年間23円（第2四半期末日7円、期末日16円）を予定しております。

（注） 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成しております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上